

いろは文字 罫くせり (その三十二) 徘徊いろは)

沓 尻 成 泰 罫

いろはにほへと ちりぬるを 色は匂へど 散りぬるを

わかよたれそ つねならむ 我が世誰ぞ 常ならむ

うるのおくやま けふこえて 有為の奥山 今日越えて

あさきゆめみし ゑひもせず 浅き夢見じ 酔ひもせず

(ん)

岩風いぶろ 古風こぶろ 路地裏ろじり 枯れ葉かれは 花一輪はないちりん に 日本語ほんご 炎えん 一

炎えん を捉と へ 碧空へきくう 見ると 東京とうきょう の街まち 上海しやうかい 鳴り

林檎りんご 食く ふ 犬いぬ 盗み屋ぬすみや お猿さる 累世るいせ 丈夫ますらを 女をみな と なす 輪りん 一

技わざ あり 見たか かの ツケコシよ よき古き歌 高岡たかおか 来こ られ

歴史れきし 語るぞ 其処そこ 老松おいまつ 月影つきかげ 琴音ことね 寢覚ねざ めよきかな

名古屋なごや 弁べん なら 乱詩らんし も 弾は む 無用むよう 大用たいよう 宴うたげ 残り居のこりゐ

礼れい や か 囲碁いご の 残のこ る か や おお 大阪おおさか 遠とほ く 旅くるま や

大和たけのこ まほらま まほろば 夜明よあけ け 堅牢けんらう タケフ 太たけのこ き 筍たけのこ

この 鄙路ひなぢ 越こ え 縁起えんぎ 担か ぎて 寺詣てらまう でああ 生憎あやにく 雨あめ さ

酒を頂きー霧の中の温泉ー夢のまた夢ー恵みの極みー

魅惑の話ー四季万葉絵ー咲酒飲み酔ひー人をも身をもー

文字もて残せー千の句生かすーすべてはこれ无

二〇二三年（令和五年）十二月九日

## 註

地上海鳴り⇨巨大都市東京のざわめき、うねり。

かのツケコシよ⇨ツケコシは囲碁用語。相手のケイマの石にツケて切りにいく手。ケイマはある石から二つ前の斜めに置くこと。将棋の桂馬の進み方に似る。

高岡来られ⇨高岡、富山方言。「高岡において、いらっしやい、いいところだから」というような気持ち。

礼やか囲碁の 残るかやおお⇨AIが跋扈する近年、昔からの棋道、棋品はこの先……？  
carと旅や⇨「carで」ではない。単なる移動手段ではなく、旅の友、「旅は道連れ」。

大和まほらま⇨「まほらま」はすぐれたよい所。「まほろば」に同じ。

倭建命は死ぬ前に次の歌を歌った。（古事記）

倭は 国のまほろば たたなづく 青垣 山隠れる 倭しうるはし

堅牢タケフ⇨タケフも囲碁用語。二つの石が間をあけて平行に並んでいる。手抜きしない

限り相手から切られることはない。(昔は竹節と書いたりしたらしい。)

咲酒あぐし飲あみ酔あぐしひあ咲酒は飲あんで楽あしくなる酒。笑酒とも書く。咲は笑に通ずる字で「わらう」

とも読む。

人をも身をもあまた百人一首から盗み取り。

## 後記

再三再四の気まぐれ遊び。元来のしりとりに戻ったつもり。特段のコメントはない。

四か所の地名は筆者の個人的理由。

そろそろ、この「いろは文字鋤」は、断筆、…………… 休筆？

二〇二三年（令和五年）十二月九日